

(施設所管課記入様式)

中央・西部・東部図書館及び生涯学習ルーム「まなび南郷」 内部評価結果
(施設所管課による評価)

【評価対象施設】 中央・西部・東部図書館・生涯学習ルーム「まなび南郷」

【指定管理者名】 株式会社 図書館流通センター

【評価対象年度】 令和3年度

【施設所管課名】 産業・文化部 生涯学習課

業務内容について評価

今年度も、令和2年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により、前年度に比べて開館日数が減少（中央△9日、西部△6日、東部△9日）しましたが、年間貸出冊数では中央で+7.7%、西部で+4.2%、東部で+4.6%、年間貸出件数では中央で+8.1%、西部で3.8%、東部で+5.1%とやや増加しています。依然、新型コロナウイルス感染症による影響はありますが、図書館がコロナ禍における「おうち時間」や「ステイホーム」を意識した各種企画等や徹底した安全対策に取り組んでこられた図書館の努力の成果だと考えられます。

イベントに関しては、来館を促し行う事業、WebやSNSを活用した来館せずに行える事業等、コロナ禍においても開催できる感染症の状況に応じ形態を変更して実施していました。中央図書館では司馬遼太郎記念館を訪ねた「文学館ツアー」や「大人のためのおはなし会」、西部図書館・まなび南郷では開館15周年イベント「まつりだ！！まつりだ！！来ぶらり」や、親子でSDGsを学ぶ「親子で一緒に工作しよう！木製パズルづくり」、東部図書館では「鉄道ジオラマ展」「歴史民俗資料館とのコラボ展」「各棚内でのテーマ展示、面陳展示」など、各館で工夫を凝らしていました。

また、市内初の国史跡に指定された飯盛城跡をテーマにしたイベントを各館ともに多く開催し、特に、三好長慶公生誕500年にあわせて、徳島県内の関係市町の図書館とお互いの街の観光および郷土資料を交換して展示紹介する「図書館交換展示」を行い、市内だけでなく市外での大東市PRを実現しました。

第6回となった「図書館を使った調べる学習コンクール」については、コロナ禍の状況であっても図書館を使って自分で調べたいという児童・生徒の意欲が表れた結果、昨年度の2.5倍強となる528作品もの応募がありました。引き続きコンクールを実施することで子供たちの学習、読書推進につながることを期待します。また、学校と連携しながら学校図書室の支援・整備にも貢献しています。

昨年度から導入した電子図書館について、通常の図書館利用者層とは異なる年代の方

に多くご利用いただいています。今後、図書館を利用したことがない方にも電子図書館をご利用いただけるよう周知やイベント等の取り組みをお願いします。

まなび南郷については、ギャラリーにおいて、地域のサークルやボランティア団体等と連携した展示企画を実施することができました。また、「識字・日本語パネル展」(大阪府教育委員会共催)や、「里親制度パネル展」(里親支援機関おひさま共催)など、外部機関とも連携し、市民への情報提供の場として活用を図りました。また、多目的室・ボランティアルームの利用率が39.3%であり、前年度と比較すると4.8%、新規登録団体も9団体増加しています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための定員制限、利用自粛などが減少要因のある中での改善であることは評価できますので、引き続き安全に安心して生涯学習活動が行えるよう感染症対策を徹底しながら、さらなる新規利用団体の開拓を行い、安定した施設運営をお願いします。

利用者満足度について評価

図書館及びまなび南郷のアンケートでは、Webアンケートを実施。PCやスマートフォンを利用されない方に対しては、図書館のタブレットを使い対面で聞き取ることで、従来の紙媒体のアンケートと同じ環境が担保されました。全施設で利用者から高い評価をいただいております。特に図書館における「スタッフの対応」に関する満足度において、「満足」「やや満足」の合計数値が非常に高くなっています(スタッフの接客態度、対応の早さ・的確さ88.5%)。これは、様々な研修に参加されるなど職員の資質向上に積極的に取り組み、利用者目線での対応を心掛けている結果と評価しています。まなび南郷については、スタッフの対応、施設の清掃・美観が特に高評価であり、今後の利用率向上につながることを期待します。

電子図書館の認知度、利用率向上について、コロナ禍に対応した新しい生活様式が求められる中で、さらに活用されるよう、より一層の周知に取り組んでいただきますようお願いいたします。

収支状況について評価

図書館は利用料収入がない中で、感染症対策等の必要な経費は支出しながら、イベントの際に手作りの記念品を用意する等、創意工夫で支出を抑え、事業内容の充実に取り組まれていたことを評価しています。

まなび南郷では、以前コロナ禍の影響はあるものの、利用料金収入に回復の兆しが見受けられます。引き続き感染症対策を十分に行いながら、サービス向上、利用率向上に向けた施設運営を期待します。

総合評価

図書館運営について、利用者の増加、サービス向上に向けて、3館で連携しながら、それぞれの館の特色を生かしながら切磋琢磨し、各館で常に創意工夫されていることを大変評価しています。

コロナ禍で利用が減少したとはいえ、図書館は、本市における生涯学習施設の中でも年間約30万人もの人が利用する主要な施設のひとつです。また、緊急事態宣言中の臨時休館により、図書館が市民の暮らしに不可欠であることが再認識できました。これからは、調査研究・学習の拠点として資料の充実を図るとともに、利用される方のニーズや社会の要請に応えるための図書館サービスの充実が望まれています。今後も、専門的知識を活かした効果的な知識・情報の提供、図書館の付加価値を高めていけるような、さらに魅力あるサービスの提供に努めてください。そして、民間事業者のノウハウ及び豊富なネットワークを活用して、新たな来館者の増加に努めるとともに、新しい生活様式に基づき、図書館各館が年齢を問わず全ての市民の居場所として、誰もが気軽に利用でき、何度でも行きたくなる図書館となるような企画・運営を期待します。